

マーケットの動き (2022年11月7日～11月11日)

先週の為替市場は前週末比、米ドルは対円で下落（円高）しました。10月の米国CPI（消費者物価指数）が市場予想を下回り、米国金利が低下したことで日米金利差の縮小を見込んだ円買い・米ドル売りが入り、週初1ドル=147円台でスタートした米ドル円相場は、週末に139円台前半まで下落して週を終えました。ユーロは、前週末比、対円で下落した一方、対米ドルでは上昇しました。

投資環境見通し (2022年11月)

円に対して、米ドル、ユーロともにレンジ内での動き

米ドル：日米金融政策の方向性の違いはドルの上昇要因として継続するとみられますが、日本国政府・日銀によるドル売り介入に対する警戒感が残ることに加え、今後の景気やインフレ動向次第でFRB（米国連邦準備制度理事会）による利上げペースの鈍化を巡る議論が進む可能性もあり、ドルは円に対してレンジ内での動きになるとみています。

ユーロ：日本とユーロ圏との金融政策の方向性の違いがユーロの上昇要因として継続するとみられますが、欧州景気の先行きに対する懸念がユーロの重しになるとみられることから、ユーロは円に対してレンジ内での動きになるとみています。

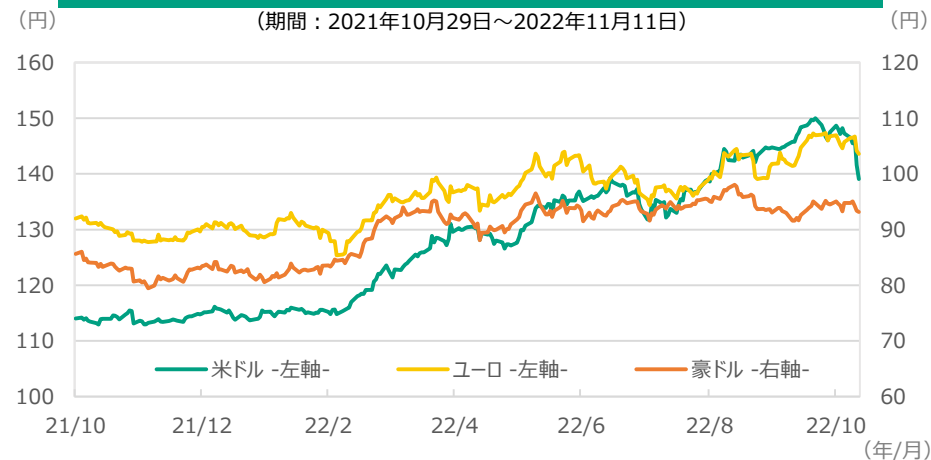
	11月11日	変動幅 (円)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	139.07	▲8.18	▲6.67	8.78	25.10
ユーロ/円	143.61	▲2.10	2.11	6.20	12.87

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

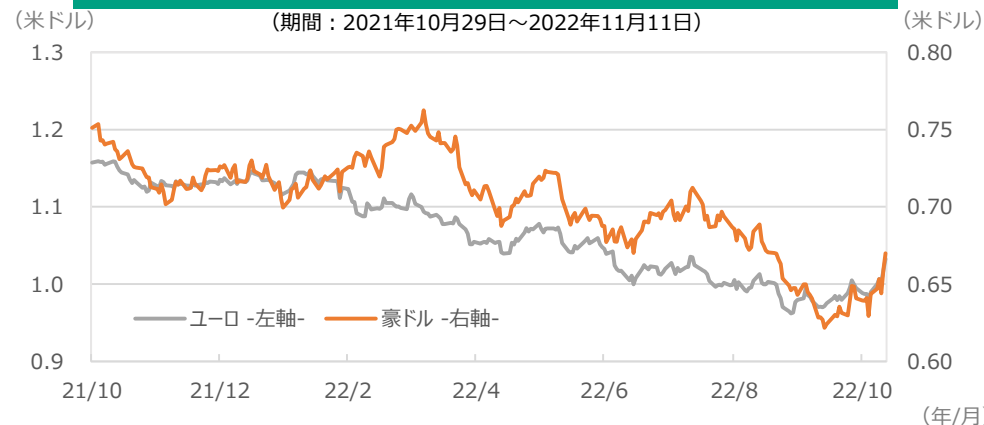
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202211_outlook.pdf

為替レートの推移 (対日本円)



為替レートの推移 (対米ドル)



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>